

Minna no Nihongo

みんなの 日本語

中級Ⅱ本冊

CD2枚付



スリーイーネットワーク

Minna no Nihongo

みんなの 日本語

中級Ⅱ本冊

スリーイーネットワーク

© 2012 by 3A Corporation

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the Publisher.

Published by 3A Corporation.

Trusty Kojimachi Bldg., 2F, 4, Kojimachi 3-Chome, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083,
Japan

ISBN 978-4-88319-590-9 C0081

First published 2012

Printed in Japan

はじめに

『みんなの日本語 中級Ⅱ』は『みんなの日本語』シリーズの『中級Ⅰ』に続く総合的な中級日本語教材として企画、編集されたものです。

『中級Ⅰ』は、『中級』を目指す学習者にとって、『初級』からの連続性を保ち、学習項目のわかりやすさと多言語に対応していることにより、現在、一般成人のほか、進学を目指す大学生・留学生のための教材として、日本国内外の日本語教育機関で幅広く使用されています。

近年、『本』に定住する外国人はますます増える傾向にあり、それに伴ってさまざまな分野で国際交流も活発化し、その地に根差した地域活動も日常化・多様化してきています。

こうした日本国内の環境の多様化と日本語学習者層の厚さを背景に『中級Ⅰ』に続く教科書、『中級Ⅱ』を求めるご要望が各方面より小社に寄せられていました。

本書は、この強い要望に応えるものとして、実践経験の豊かな日本語教師と研究者が協働し、執筆、試用、検討を重ねて編集し、ここにお届けするものです。

初級日本語は、日本語によるコミュニケーションを必要とする人が自らの意思を相手に伝えること、また相手の話した内容を理解できることが最低限の必要条件ですが、中級では、学習の結果として得られる日本語の運用能力だけでなく、日本固有の文化や慣習、また日本のことろといったものを理解し、さらには日本語を学ぶことそれ自体から得られる喜びに気づく段階でもあります。本書は、そのような学習者の皆様に十分お役に立つことと確信しております。

最後に、本書の編纂に当たりましては各方面からのご意見・ご要望などを数多く頂き、また授業での試用などでも多大なご協力を頂きました。ここに深く感謝申し上げます。

当社は、これからも異文化の接点で必要とされる教材の開発、出版を通じて、人と人のネットワークを広げてまいりたいと考えております。

どうか、尚一層のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

2012年3月

株式会社スリーエーネットワーク
代表取締役社長 小林卓爾

はんれい 凡例

I. 教科書の構成

『みんなの日本語 中級Ⅱ』は『本冊 (CD 付)』『翻訳・文法解説 (各国語版)』よりなる。
『翻訳・文法解説 (各国語版)』は英語版のほか、順次刊行していく予定である。

本書は中級後期の教科書で、『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』(初級 300 時間)、『みんなの日本語 中級Ⅰ』(中級前期 150 時間)を修了した学習者が、中級から上級への時期に必要な「読む・書く」「話す・聞く」の総合的な言語能力と自律学習の能力を培うことを目的としている。

『中級Ⅱ』各課の構成は、中級後期の効果的な学習の展開を勘案し、『初級Ⅰ・Ⅱ』『中級Ⅰ』までの配列とは変わり、「読む・書く」「話す・聞く」「文法・練習」「問題」の順である。

II. 教科書の内容

1. 『本冊 (CD 付)』

(1) 本課 各課の構成と内容は以下のように分けられる。

1) 読む・書く

学習者の興味・関心に応えるテーマと学習レベルにふさわしい内容の「読み物」を用意した。

新出語句にとらわれず、「読むときのポイント」を参考に、文章全体を読み進め、大意を読み取る。各課の「新出語彙」は別売の『翻訳・文法解説』に掲載されているが、文脈の中で言葉の意味を類推したり、辞書で調べて確認したりするなど、現実の「読み」を体験する。

1. 考えてみよう

読む前の準備として、「読み物」本文の話題やその背景に関する知識を活性化させる。

2. 読もう

冒頭に「読むときのポイント」を示す。内容を理解し、全体を把握するために必要な読み方のヒント、ストラテジーやスキルが示されている。文章の流れに注目し、大意が的確、迅速に把握できるようになることを目指す。

3. 確かめよう

「読むときのポイント」のタスクが的確に行われ、文章全体の要旨を把握できたかどうか、また語句の意味を文脈の中で捉え、理解できたかどうかを確認する。

4. 考えよう・話そう

本文に関連した課題について考え、自分の経験や感じたことを基に意見を述べたり、まとまった話をしたりする。

5. チャレンジしよう

本文の内容を発展させた課題に取り組み、文章としてまとめる。その手が必要として、課題に応じた語句、文章形式、文字数（200～800字程度）、文章の流れなどを示す。

2) 話す・聞く

『中級Ⅱ』の「話す・聞く」は「読む・書く」と関連のある話題・機能のシラバスで構成されている。

前半13課から18課までは社交・交流会話の場面を中心に、話題、内容、相手に応じた適切な表現ができる会話力を養う。「会話」では、やりとりの実際（共感、褒め、謙遜、慰め、励まし、待遇表現上のスタイルの使い分けなど）が示されている。

後半19課から24課まではさまざまな口頭発表の場面——挨拶、インタビュー、発表（情報伝達）、ディスカッション、スピーチ、就職面接——などを設定した。話題、情報や資料の提示、聞き手に配慮した具体的な表現や話し方の指標が示されている。

1. やってみよう

目標会話への導入。設問に従い、与えられた状況でどの程度できるか自分の言葉で話してみよう。

2. 聞いてみよう

CD「会話・発表」で内容、表現を聞き取る。

3. もう一度聞こう

CDを聞きながら、____の部分に言葉を書き入れて「会話・発表」を完成する。

4. 言ってみよう

絵を見ながら発音やイントネーションに注意し、CDのとおりにつけてみる。

5. 練習しよう

「会話・発表」に使われている機能的な表現や語句を用い、場面や設定を変えて、談話練習をする。

6. チャレンジしよう

与えられた状況でその課の目標となる機能を生かした話をする。

3) 文法・練習

「文法・練習」は各課とも「読む・書く」「話す・聞く」に分けて構成される。

- 「読む・書く」「話す・聞く」の文法項目（文型）は、それぞれ「理解項目」と「産出項目」に分けられる。
- 「理解項目」「産出項目」とともに、各課「読む・書く」「話す・聞く」本文から抜き出した一文を見出しとして掲げる。文法項目の部分は太字で示す。
- 「理解項目」は、例文を掲げて理解を促し、文型の意味・機能が適切に理解できたかどうかを、a, b, 二択の問題でチェックする。
- 「産出項目」は、例文を掲げて理解を促したのち、文型産出のための多様な練習を取り入れ、日常の言語活動につなげる。

4) 問題

各課末の「問題」「I. 聴解」(🔊) CD マークの箇所、「II. 読解」で構成される。その課で学んだ文型や語彙・表現だけでなく、課の学習目標、話題・機能を重視して、「会話・発表」の場面・内容、また作品や記事を選んだ。「問題」は学習した事柄のフィードバックにとどまらず、問題を解く作業を通じて日本語の総合的理解力を鍛え、言語生活を豊かに育むというねらいがある。

(2) 表記と振り仮名

- 漢字は原則として、「常用漢字表」と「付表」による。

- 「熟字訓」（2字以上の漢字の組み合わせ、特別な読み方をするもの）のうち、「常用漢字表」の「付表」に示されるものは、漢字を用いた。

例：友達、眼鏡、風邪、一人

- 人名・地名などの固有名詞、または芸能・文化などの専門分野の語には、「常用漢字表」にない漢字や音訓も用いた。

例：世阿弥、文藝、如月

- 「常用漢字表」および「付表」に示される漢字であっても、学習者の読みやすさに配慮して、仮名書きにしたものがある。

例：ある（有る、在る） いまさら（今更） さまざま（様々）

- 3) 数字は原則として算用数字を用いた。

例：9時、10月2日、90歳

ただし、次のような場合は漢数字を用いた。

例：一日中、数百、千両

- 4) 振り仮名は原則として、初級相当学習漢字には付けないこととした。

1. 熟語で中級相当学習漢字を含む場合はこの限りではない。
2. 当該ページ初出の中級相当学習漢字には振り仮名を付ける。
3. 「読む・書く」「話す・聞く」それぞれの本文内（見開き）の同一漢字には初出時にのみ振り仮名を付ける。

(3) 学習項目

「読む・書く」「話す・聞く」に提出された文法項目は、それぞれ「理解項目」と「産出項目」に色分けして示した。

1) 「読む・書く」

各課の「読み物」のタイトル、目標（ストラテジー）、文法項目（77項目）―①理解項目（34項目）、②産出項目（43項目）―が掲げられている。

2) 「話す・聞く」

各課の「会話・発表」のタイトル、目標（ストラテジー）、文法項目（41項目）―①理解項目（20項目）、②産出項目（21項目）―が掲げられている。

なお、文法項目の表記は文法用語を使用せず、以下のようにした。

接続部分が名詞などの語句に相当する場合は「～」で示す。

例：「～といった」（第14課）

接続部分が「文」に相当する場合は「…」で示す。

例：「…という」（第15課）

ただし、接続部分が「文」であっても、末尾の形が「て形」「た形」「辞書形」「たら形」「ている形」「ば形」など、特定の形をとる場合は「～」で示した。

例：「～たところ」（第16課）

(4) 文法 プラスアルファ

- 1) 「文法 プラスアルファ」は『中級Ⅰ』『中級Ⅱ』で学んだ「中級文法」の補足項目である。「上級日本語」あるいは「専門日本語」を目指すなど、多様なニーズを有する学習者の意欲に応えるものである。

2) 文法項目は意味・機能別に大きく5つにまとめた。

1. 複合助詞 (2語以上からなる「助詞相当の語句」) を使って表現する
2. 接続語を使って表現する
3. 接尾語を使っていろいろな表現をする
4. 発話するときの主観的態度、心持ちを表現する
5. ある動作や現象が時間の経過の中でどのような状態にあるかを述べる

3) 文型にはそれぞれに例文を掲げている。

4) 『翻訳・文法解説』には文型の意味・機能の説明および例文の翻訳を掲載している。

(5) 索引

1) 新出語 (約2,430語)

2) 会話表現 (53語)

3) 漢字 (339字)

* 「読み物」全12課に出現した常用漢字のうち初級相当学習漢字および『中級I』学習漢字 (315字) を除いた漢字。

4) 文法項目 (「文法・練習」「文法 プラスアルファ」および『中級I』の「学習文法項目」) (357文型)

(6) 解答

1) 解答

① 「読む・書く」「話す・聞く」「文法・練習」

② 「問題」

(問題によっては学習者の背景によりさまざまな解答が存在する。ここでは、一つの解答例を掲げる。)

2) 「話す・聞く」会話スクリプト

3) 課末聴解問題スクリプト

4) CDの内容

(7) CD

CDには、①「読む・書く」の本文「読み物」、②「話す・聞く」の「会話・発表」、③「問題」の聴解部分が収録されている。『中級I』と同様、音声による日本語の表現の豊かさを理解し、運用能力を養うために活用する。